一段ろくさうに御座候と云てよし、亭主すねものにて、くわんすを少ゆがめ置て客に尋る人あり、ろくさうに御座候といわせず、まして後にろくになをせり、然時は客のけいはくに成候、少ゆがみ申候といへば、ていしゆのきよくなし、其時は只一禮の時のやうにあひ去らふ物なり、

〔茶道便蒙抄亭主方〕置合の事

一座敷掃除して、道具置合も相濟て、客座入の案内に、くゞりの戸三ッぶせほどあけ懸る也、客是を見て手水つかひ入事也、又此時くゞりの戸あけず鉦打事あり、是は古織より初る也、古織伏見に居住之時、數奇屋より腰掛まで程遠きゆへ、座敷の仕廻客へ去れざるに付て、案内の爲に鉦をうたれ候と也、其以後座敷檐下の腰懸にても、人毎に鉦を打事不心得、

〔貞要集四〕數寄屋江入客亭作法之事附茶調ル心持之事

一中立の内、懸物取て花を生ケ、大目疊に道具莊合、釜の湯相、第一可心得、能時分を考て案内鉦喚鐘を可打、貴高の御客には、腰懸まで案内に罷出候、極寒の時分は、少もはやく案内申事、暑氣の時分は腰懸に緩々と汗を入候樣に遲速を可考、客互に時宜ありて手水を遣、小座敷へ入申候、床前花を見、花入を見、大目の莊を見申事、初座同事也、客座定て亭主勝手口を明ケ、御茶に可仕と挨拶有之、其時に先花を譽、花生を譽申事、是も懸物のごとく三ケ所の譽所有と知べし、亭主茶を調申内は、謹て手前一覽可申候、茶立出す時、上客居寄て茶碗を取、相客の前に置、一禮をして戴呑申候、次々の客茶呑終て、下座より上客へ茶碗を遣申候、上客の香を齅、茶椀一覽して次々へ廻し、上客へ戻候時、少居直り茶椀とりなをし、鎰疊へ返し申候、貴高の御手前のときは、茶椀を返し申候、亭主茶椀を取、定座に置申時、一座一同禮有之事也、茶椀洗て下に置候時、御仕廻候樣にと申儀如法、茶巾茶筅仕廻、茶杓を茶椀へ懸申時、茶入袋茶杓乞事有、又茶入茶椀莊付ケ、水をさし、水差のふたをめ申時乞事有、又透と仕廻、水覆柄杓蓋置勝手へ取入、茶入をとりに出候時乞事有、是にて以上